

高速道路や限界集落をつなぐ道が通る みなかみ町・老朽化への挑戦 老朽化橋梁対策

群馬県利根郡みなかみ町

全国の道路橋70万橋のうち都道府県、市区町村が管理する橋梁は約95%を占め、そのうち約7万橋は修繕が必要です(平成25年4月現在)。しかし、修繕実施率は15%に過ぎず、各自治体の取り組みが重要になっています。

山あり、谷ありの地形に400以上の橋が架かる町

群馬県・みなかみ町は、関東平野最北端、利根川の源流に位置し、群馬県の中でも一番面積が広い町です。

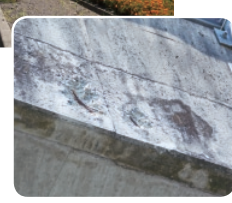
山あり、谷ありの地形、川沿いには集落が点在しており、町内には、関越自動車道や国道17号から山間部の集落をつなぐ市町村道まで、さまざまな道路が通っています。市町村合併によ



みなかみ町
岸 良昌 町長



瀨森橋(昭和60年築)にはコンクリートの剥離などが見られる。交通量の多い国道17号に架かるため、補修工事対象に。



遊離石灰

て、管理する施設も増え、町道の総延長は112.9km。橋梁数も多く、現在429橋、15m以上の橋は96橋に及びます。

高速道路の上の橋が老朽化の悩みの種に

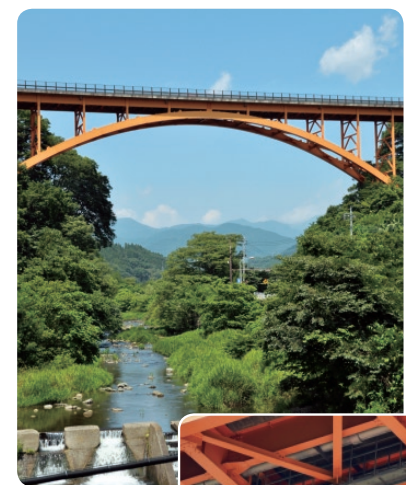
みなかみ町でも、今後10年で老朽化が進み、建設後40〜50年を迎える橋梁がかなり増える状況にあります。町が抱える老朽化の悩みについて、岸町長は次のように語りました。

「高速道路の上に架かった市町村道の橋(オーバークロス)は、コンクリートの表面が剥離して、高速道路を走る車に落ちれば、大きな事故になりかねません。一方、町民にとっては、日常の利用頻度が高い町内の橋の補修が重要です。予算の問題もあり、どの橋から補修を行うかが悩みの種となっています」。

防災・安全交付金を利用し、長寿命化対策を開始

そこで、みなかみ町では、国土交通省が平成24年に創設した防災・安全交付金を利用し、現在4つの橋梁に適用予定。そのうち「湯の華燦々橋」は国道17号の上に架かり、三国連峰が望める風光明媚な橋ですが、腐食や遊離石灰などが確認されたため、平成25年8月に補修工事を発注しました。

「従来の補助金では、防災・減災対策は後回しになりがちでした。その点、防災・安全交付金であれば、目的が明確ですから使い勝手がいい」と岸町長



交付金適用対象となっている湯の華燦々橋。集落をつなぐ生活の橋として利用されている。橋脚の腐食のほか、床版の損傷などが見られる。

は言います。中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故は、みなかみ町にとっても、老朽化対策に本格的に動き出すきっかけになりました。

「平成24年度からは長寿命化対策として、担当部署5人のうち毎週2人体制で、橋をメインにパトロールを実施しています。点検の技術を職員にどう身につけさせるかなど、課題は多いですが、事後保全ではなく、日々点検・補修を重ねることが大切だと思っています」(岸町長)。

橋によっては、建設当時の資料が無い、いつ補修したのか記録が無い、というものもあるとのこと。こうした試行錯誤の中から交付金の利用をきっかけに、老朽化対策と長寿命化への挑戦はまだ始まったばかり。今後の同町の取り組みが注目されます。